

混雑避け感染防止 公平性が鍵

時間帯などに応じて運賃を変える「変動運賃制」導入に向け、JR東日本が本格的な検討を始めている。ラッシュ時の運賃を上げて混雑を緩和する狙いで、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ効果もある。運賃改定で混雑を回避できるかには不透明さもあるが、JR東はコスト削減効果も期待しており、意欲的だ。ただ、鉄道運賃は利用者の多さから公共料金とも位置づけられており、導入意義の説明と公平性確保で利用者から理解を得る必要がある。

国土交通省担当
福田 涼太郎

鉄道の変動運賃制

通勤定期券で検討

変動運賃制はラッシュ時など需要が多いときは運賃を高くし、少ないときは運賃を下げる仕組み。国土交通省が高速道路の渋滞緩和に向けて検討している、時間帯などで通行料金を変える「ロードプライシング」と同様、利用が一定時期に集中することを避ける狙いがある。新型コロナウイルス感染拡大後、密集回避策として注目が集まった。

需要の多寡などに応じて料金を変える仕組みは「ダイナミックプライシング」とも呼ばれ、決して珍しいものではない。航空運賃やホテルの宿泊料などには、時間帯や曜日、季節などによ

って料金が変動する仕組みが受け入れられている。

JR東は新型コロナウイルス禍が収束すれば朝のピーク時の利用が急激に元に戻る可能性を考慮して、まずは通勤定期券を変動運賃制の対象とし、ピーク時に利用できる定期券の価格を上げることが検討。混雑緩和を定着させる考えだ。

一方、オフピークの時間帯に利用を限定した「オフピーク定期券」を作り、通常より価格を抑えることで利用者にも恩恵があるよう配慮。JR東の収益としては「プラスマイナスゼロにする」方針で、深沢祐二社長は「収益を増やそうというつもりはない」とする。JR東が定期券から変動運賃



鉄道での変動運賃制導入は出勤風景を一変させる可能性がある。5月、JR有楽町駅前

入場料や家電価格でも

国内でダイナミックプライシングの導入例がある 主な業種・料金

- 飛行機や高速バスの運賃 
- ホテルや旅館などの宿泊料 
- スポーツやコンサートの入場料 
- 遊園地・テーマパークの入場料 
- 駐車場などの駐車料 
- 飲食店のメニュー代金 
- 家電量販店の商品代金 
- 自動車の給油における顧客の消費傾向に応じた割引サービス 
- 新型コロナウイルスなど感染症の入院保険料 

変動運賃制を含め需給状況などで価格が変わる「ダイナミックプライシング」は、多くの商品やサービスで導入されており、価格の変動要因もさまざま。

プロ野球やサッカーJリーグの導入事例では、対戦カードや天気予報のほか、出場選手によってもチケットの価格が変化。家電量販店では季節で商品価格が変わる。よく見かけ

る競合他社よりも価格を下げる小売店のサービスもダイナミックプライシングの一種だ。

また、新型コロナウイルスなどに感染した場合に給付金を受け取れる保険商品は、感染者が増えれば保険料が上がるといった仕組みになっている。ホテルの宿泊料や駐車場の料金では付近で人気イベントが開かれる日には価格が上がることもある。

実効性に懸念も

制を始めようとするのは、定期券利用の通勤者が全体の7割以上を占めるからだ。また、通勤定期券は企業側が負担しているケースが多く、家計の直接負担を避けられるなどの利点も指摘されている。

ただ、運賃改定が混雑緩和に与える影響には不透明さもある。コロナ禍の中でも多くの企業では出社時間や就業時間が決まっているという現実があるからだ。国交省の担当者は変動運賃制について「『どうしてもこの時間に出勤しなければいけない』という利用者もいる」と問題を指摘する。

実際、JR東が今年3月から始めたピーク前後の時間帯での電車利用で同社のポイント還元するサービスでは、オフピーク利用に移行する動きは大きくない。担当者は「もっと増えることが望ましい」と話し、1年程度の運用でピークシフトの効果を見極めるとしている。

また、同様のポイント還元サービスを進めているJR西日本の担当者も効果について「それ